

府内市町村の動き

岸和田市

■ 岸和田市は、広告収入事業推進ガイドラインを策定した。

これは、きしわだ行財政再生プランにおいて「新たな収入の確保」として位置づけられている取組の一環であり、岸和田らしい地域性や特色を出しつつ広告収入事業を推進するという考えに基づき作成されたもの。

昨年10月より若手職員10名でプロジェクトチームを構成し、市有施設や備品への広告掲載やネーミングライツについて、導入方法や導入の可能性の評価も検討した。

また、広告収入事業を財源確保の手段とするだけでなく、経営に対する職員の意識改革や市民サービスの向上、地域の活性化も目指す。

市ではこの取組を通じ、市の財政力アップに活用していく考え。

松原市

■ 松原市は、民間の広告・出版業者と「松原市暮らしの便利帳」を作成する協定を締結した。

これは、官民協働事業として市は経費をかけず、平成15年に市政全般を紹介するために作成した「暮らしインフォメーション」の更新をするもの。

これまで財政難から当紙の更新を見合わせていたが、(株)サイネックス社が、事業所等から広告を集め、その広告費で印刷・製本・配布を行い、市はそこへ市政情報などを無償提供する方法により作成する。

市では8月頃の発行を目指し、市内全戸に配布する予定。

四條畷市

■ 四條畷市は、生活環境の保全等に関する条例を制定し、7月1日から施行した。

これまでの条例を見直し、公園や道路へのペットのふんの放置やタバコの吸い殻、空き缶等のポイ捨て禁止などの美しいまちづくりに関する規程を追加したもの。

ペットを飼う家庭の増加とともに、ふんの放置等の迷惑行為についての相談も増加傾向にあることから、動物の管理に係る迷惑行為を禁止する規定を設けた。また、街の美観確保や清潔保持の観点から、吸い殻、ごみのポイ捨てや落書きの禁止についての規定も設けた。これらに違反する場合は、氏名や違反行為を公表するなどの罰則が適用されることがある。

市ではこの取組を通じ、生活環境の保全に対する市民の意識向上と美しいまちづくりを進めたい考え。

交野市

■ 交野市は、まごころダイレクト収集を実施した。

これは、家庭ごみを集積所まで排出することが困難な一人暮らしの要介護高齢者や障がい者を対象に個別収集するもの。

対象となる条件は、一人暮らしでホームヘルプサービスを利用しており、①要介護・要支援認定を受けている、②身体障がい者手帳の交付を受け、1・2級に該当、③療育手帳の交付を受け、知的障害の程度がAに該当、④精神障がい者保健福祉手帳の交付を受け、障がいの程度が1級に該当する方。

なお、収入に伴う別途費用は不要。

市ではこの取組を通じ、快適で安心して暮らせるまちづくりに取組んでいく考え。

全国の市町村の動き



新潟県新発田市

- 新発田市は、県内5市町村と共同で電子申請システムを導入した。

これは、本人確認や添付書類が不要な住民票の休日交付の予約やふるさと納税申込等から開始し、今後は公的個人認承を活用した高度な申請まで拡大する計画である。

民間企業の既存システムを採用したため、早期に、かつ、6市町村がまとまって同じシステムを導入することから、初期費用を分割することが可能となり格安で導入することができた。

なお、同市では別システムで公共施設予約サービスも開始し、電子申請システムと併せて365日24時間のサービス提供を展開し、市民の利便性の向上を図っていく考え。



神奈川県秦野市

- 秦野市は、市役所敷地内のコンビニエンスストアで住民票の請求・受取サービスを開始した。

これは、年中無休、24時間営業の利便性を生かし、窓口サービスを拡充するもの。

昨年12月、市役所敷地を貸し出し、全国初の独立した店舗としてコンビニが開店した。コンビニで住民票を受け取れる自治体はあるが、申請を24時間受け付けるのは全国でも珍しい。

市はコンビニに機器の管理・運営費として毎月2千円支払うだけで、市民サービスが図られるとともに、コンビニも集客面でのメリットがあることからこの取組が実現した。



埼玉県越谷市

- 越谷市は、バリアフリーマップ（愛称おでかけマップ）の配布を開始した。

これは、市内公共施設や医療機関、民間店舗等のバリアフリーの情報をまとめたもの。4つの形態に分かれ、施設のバリアフリー情報を絵文字で表現したおでかけマップ、車イス対応トイレの状況をまとめた別冊トイレマップ、地図情報システムを導入したホームページ版バリアフリーマップ、道路や建物を立体的に表現した「触地図」がある。

作成にあたっては、障がい者団体や子育て支援団体等の参画を得て、作成方針や施設調査に協力を受けて実施した。

市ではこの取組を通じ、「だれもが健康で生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり」を進めていく考え。



岡山県総社市

- 総社市は、環境観光大使を新設し、アルピニストの野口健氏を委嘱した。

これは、環境問題への提言や市内の観光スポットを全国に発信するもの。

環境と観光の両分野を担う大使は全国初。

今後、市の観光スポットであり、桃太郎伝説の舞台とされる鬼城山の清掃登山などの活動等を予定している。

市ではこの取組を通じ、市を全国にPRするとともに、市民とともに環境問題に取り組んでいく考え。